

第 19 回 原子力建築運営委員会 議事録

日 時 : 平成 26 年 9 月 30 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 : 日本建築学会 建築会館 308 会議室

出席者 (敬称略)

委員 : 北山 (主査 : 首都大)、中川 (幹事、中部電)、
瀧口 (東工大)、橘高 (首都大)、前田 (東北大)、楠 (東大)、菊地 (東電)、
村上 (関電、伏見委員代理)、梅木 (中部電)、川里 (原電)、斎藤 (北海道電)、
熊谷 (東北電、前田委員代理)、小竹 (北陸電)、
橋本 (中国電、阿比留委員代理)、細川 (四電)、赤司 (九電)、武井 (電源開発)、
秋田 (原燃、棟方委員代理)、辻 (原安進)、今塚 (大林)、兼近 (鹿島)、
小島 (清水、三浦委員代理)、神地 (竹中)、小野 (大成) 【下線 は欠席者】

オブザーバー : 和田 (中部電)、田中 (大林)、坂詰 (清水)、前中 (竹中)、光木 (大成)

(文責 : 小野)

- 資 料 : 19-0 第 19 回 原子力建築運営委員会議事次第
- 19-1 第 18 回 原子力建築運営委員会 議事録メモ (案)
- 19-2-1① 2014 年度の原子力建築運営委員会の検討体制
- 19-2-1② 2014 年度 原子力建築運営委員会 委員名簿 (案)
- 19-2-2 第 37-39 回 原子力関連学協会規格類協議会議題等
- 19-2-3 第 37 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録
- 19-3-0 2015 年度 委員会活動計画案
- 19-3-1 小委員会廃止申請書 (耐震構造評価小委員会)
- 19-3-2 小委員会設置申請書 (原子力耐震性能評価小委員会)
- 19-3-3 WG 廃止申請書 (裕度評価検討 WG)
- 19-3-4 WG 設置申請書 (耐震性能評価ガイドライン策定準備 WG)
- 19-4-1① 2014 年度 耐震構造評価小委員会 裕度評価検討 WG
年間スケジュール (案)
- 19-4-1② 耐震構造評価小委の活動計画 (案) との WG での議論の対応
- 19-4-1③ 原子力施設における建築物の維持管理指針・同解説 改定案
- 19-4-2① 第 3 回維持管理指針改定準備 WG 第 8 回原子力建築物維持管理小委員
会 議事録
- 19-4-2② 「原子力施設における建築物の維持管理指針・同解説」の改定スケジ
ュール (案)
- 19-5-1 2014 年度大会 PD 作業スケジュール (案)
- 19-5-2 PD 「原子力発電所建築物の寿命を考える」記録案

- 19-5-3 日本建築学会 2014 年度大会（近畿）学術講演 原子力部門の概要
19-6 AIJ デジタルライブラリーにおける 2014 年度大会研究集会資料の会員
限定無償公開について

議 事：

1. 前回議事録の確認

中川幹事より資料 19-1 に基づき、第 18 回原子力建築小委員会議事録（案）の説明があった。6/17 三学協会連絡会は第 36 回ではなく第 37 回に修正することで承認された。

2. 委員の紹介

中川幹事より資料 19-2-1②に基づき、各小委員会・WG の委員の交代の紹介があった。

3. 原子力関連学協会規格類協議会について

中川幹事より資料 19-2-2、19-2-3 に基づき、原子力関連学協会規格類協議会の開催と議事録が紹介された。

- ・欠席の場合は代理出席者を出してほしい旨の要望があったことが報告された。

4. 2015 年度委員会活動計画について

梅木委員より資料 19-3-0、19-3-1、19-3-2、19-3-3、19-3-4 に基づき、2015 年度活動計画について報告された。

- ・耐震構造評価小委員会とその下の裕度評価検討 WG については、今年度末で予定通り廃止し、名称を変更して来年度新たに設置する。
- ・英文名称は「Subcommittee on」から始まる名前に変更する。

5. 年間スケジュールについて

梅木委員より資料 19-4-2②に基づき、指針改定スケジュールについて報告された。

- ・刊行承認から刊行までの期間が短すぎるように思うが、可能か。
→脱稿から最低 3 ヶ月で刊行できる。

6. 維持管理指針改定案について

和田オブザーバより資料 19-4-2③に基づき、指針改定案が説明された。

- ・4 章の最新知見追加に伴い、参考文献を記載するほうがよい。
- ・初版発刊以降に起きたことについて書くと良いかもしれない。
- ・改定版用の「序」を作成し、改定の趣旨を記載するほうがよい。

- ・4章に「鋼材はコンクリートと異なり、火災による熱を受けても断面欠損や材質の変化が生じにくい」と記載されているが、前提条件がないと受け入れづらい表現である。
→表現を見直す。
- ・コンクリートの圧縮強度に対しては非破壊による方法が適している旨の記載があるが、一般建築の耐震診断の考え方からすると違和感がある。
→全体を見直し、表現を再考する。
- ・火災を含め高温を受けたコンクリートの扱いについて考えてほしい。
→次回改定時に反映することを予定している。
- ・7章に、建設時の品質管理と環境条件を非破壊による方法の評価の前提とする旨の記載がある。どのように確かめるのか。また、本当に表面硬度と内部強度は相関があるのか。
→改定のための検討に参加する委員の間では、改定の主旨は共有できていると思う。全体として表現を再考する。
- ・付録3に、初版作成時以降に、膨張量の計測値に大きな変化はなく、健全性を維持していることを追記すると良い。
- ・付録4のCCV規格との区別は何か。
→CCV規格ではISIのみを対象としているのに対し、本指針ではコンクリートの機能や性能をもとに考え、また緊張力の予測について扱っている。

7. 大会 PD 概要報告について

梅木委員より資料 19-5-1、19-5-2 に基づき、概要報告案と提出工程が説明された。

- ・PD 概要報告原稿を 10/27 に提出予定である。追加コメントがあれば知らせてほしい。

8. 大会学術講演における原子力部門の概要

梅木委員より資料 19-5-3 に基づき、2014 年度大会学術講演における原子力部門の概要が報告された。

- ・コンクリート材料部門を中心に、例年に遜色がない実績であった。

9. デジタルライブラリーにおける資料の公開

梅木委員より資料 19-6 に基づき、AIJ デジタルライブラリーにおける PD（原子力発電建築物の寿命を考える）の会員限定無償公開について説明された。

- ・1 年経過後に同資料を無料公開することが了承された。

10. 建築学会大賞推薦について

北山主査より、原子力運営委員会からの建築学会大賞への推薦についての説明があ

り、西川先生を推薦することとした。

10. その他

- ・ 次回の運営委員会は、以下の予定で行う。

日時：2014年12月8日（月）10：00～12：30

場所：日本建築学会 会議室（予定）

以上